

2013.7.9. tue.

19:00start 18:30open

宝塚ベガ・ホール

(阪急宝塚線「清荒神」駅から徒歩1分 できるだけ公共交通機関をご利用ください)
〒665-0836 宝塚市清荒神1丁目2番18号

SHIRASAKI AYAKO TRIO

白崎彩子トリオ ジャズライブ

programs

AIREGIN (Sonny Rollins)
STRAIGHT NO CHASER (Thelonious Monk)
SUMMERTIME (George Gershwin) etc.

※曲目は変更になる可能性があります。ご了承ください。

ticket (税込)

全席指定 前売 2,500円(当日 3,000円)

宝塚市文化財団友の会 2,000円

※未就学児の入場はご遠慮いただいております
※前売券完売の場合は当日券は発売いたしません



託児サービスあり

事前にお申し込みください。

(公財)宝塚市文化財団 0797-85-8844

チケット発売日

一般5/2(木) 10:00~ 友の会4/25(木) 10:00

プレイガイド

ローソンチケット TEL 0570-08-4005(Lコード 57588)

宝塚ベガ・ホール TEL 0797-84-6192

宝塚市文化財団 TEL 0797-85-8844

主催 公益財団法人宝塚市文化財団、株式会社イーブニフ

後援 宝塚市、宝塚市教育委員会、特定非営利活動法人宝塚市国際交流協会

お問い合わせ 宝塚ベガ・ホール TEL 0797-84-6192 URL <http://www.t-clip.com>

SHIRASAKI AYAKO TRIO



piano 白崎彩子 Ayako Shirasaki

東京藝術大学ピアノ科卒業、マンハッタン音楽院ジャズピアノ科修士課程卒業。

5歳よりクラシック、10歳よりジャズ愛好家の父のガイダンスでジャズピアノを始める。

第3回浅草ジャズコンテストにおける最年少（14歳）での優勝を始め、第1回ハイネケン・ジャズ・コンペティション第2位、Great American Jazz Piano Competition第3位など受賞多数。

1997年より拠点をニューヨークに移し、ピアノをケニー・バロン、ブルース・バース、テッド・ローゼンタールの各氏に師事する。

これまでに、デビュー作“EXISTENCE”を皮切りに6枚のアルバムをリリース。

2009年には2度に渡るドイツツアーを行う。10年にリリースしたピアノソロアルバム“Falling Leaves, Live in Hamburg”が、DownBeatを始めとするアメリカのジャズ専門誌から高く評価される。

11年にスイスのルツェルン音楽祭に出演した際には、クラシックピアノの巨匠、マウリツィオ・ポリーニから直々にリクエストを受け、演奏を絶賛された。

現在はピアノソロ、トリオをメインにアメリカ、ヨーロッパ、日本で精力的に演奏活動を行う傍ら、10年にニューヨークにて「さくらミュージックスクール」を開校、乳幼児の日本語音楽クラスやピアノ個人指導にも力を注いでいる。

繊細かつ奔放なタッチとフレーズは、多くの聴衆を魅了してやまない。

bass 植田典子 Noriko Ueda

兵庫県宝塚市出身。大阪音楽大学短期大学部声学科卒業。

大阪の老舗ロイヤルホースで1年間のハウスベーシストを努めた後の1995年、ボストンのバークリー音楽院JAZZ作曲科に奨学金を得て入学。

同校卒業後、ジャズベーシスト、作・編曲家としてニューヨークを拠点に活動する。

2002年にアメリカの音楽著作権の会社BMI (Broadcast Music Inc)の主催するチャーリー・パーカー作曲コンテストで自己オリジナルのビッグバンド曲“Castle in the North”が最優秀賞を受賞。

最近のニューヨークでの活動として、ジャズサクソフの巨匠フランク・ウェスのバンド、テッド・ローゼンタールトリオ、ビッグバンドDIVA、ファイブ・ブレイをはじめとするトリオからビッグバンドまで多彩なグループに参加し、名門ジャズクラブ、ブルーノート、ディジーズ・クラブ・コココーラやスマールズを含む多くのライブハウスに出演。また、自己のリーダーバンド“Noriko Ueda ジャズオーケストラ”でも、オリジナル曲を中心にライブを行っている。

その他これまでに、グラディ・テイト、ジョニー・マンデル、ルー・タバキン、スティーブ・ウィルソン、ケニー・バロン、ジュニア・マンス、ロイ・ヘインズ、ヴィクター・ルイス、ヴァンガード・ジャズオーケストラ、小曾根真、井上智を含む、幅広い層のミュージシャンやグループと共演している。

日本では、06年から10年の5度にわたりテッド・ローゼンタールトリオのツアーに参加し、10年にこのトリオでの初作“ソー・イン・ラブ”が発売されている。

また、05年から09年にはギタリスト井上智のバンドのツアーに参加している。

09年5月に毎日放送“ミュージック・エッジ”で、12月に読売放送“グッと地球便”にて、NYで活躍中のジャズミュージシャンとして紹介される。

11年11月にテッド・ローゼンタールトリオの最新CD“Out of This World”が全米ラジオチャート1位を獲得、その他の最近の参加アルバムには、ジョニー・マンデルの“The Man and His Music” (11 Arbors Records)、DIVAジャズトリオの“Never Never Land” (09 Arbors Records)、DIVAの“Live at Dizzy's Club Coca Cola featuring Carmen Bradford” (08)、ファイブ・ブレイの“What the World Needs Now” (08 Arbors Records)、アン・ハンブトン・キャラウェイの“Blues in the night” (06 Telarc)、井上智の“メロディック・コンポジションズ” (06 What's New Records) 等がある。

drums クインシー・デイヴィス Quincy Davis

1977年ミシガン州グランドラピズ生まれ。幼少時からドラムスを叩きミシガン州のインターローケン・アーツ・アカデミーでクラシックの打楽器奏法とドラムスを学んだ。95年ウェスタン・ミシガン大学に入学し、ヒリー・ハートについてジャズ・ドラミングを学び、各地の学生ジャズ祭に出演して経験を積んだ。

卒業1年後の2000年にニューヨークに進出し、ウィントン・マルサリス、ジョン・ファディス、ロイ・ハグロウヴ、フランク・ウェス、エリック・リードらと共演する傍ら、ベニー・グリーン・トリオに1年、トム・ハレル・クインテットに4年在籍した。

10年カナダのマニトバ大学で教鞭をとりながら、演奏家としてもワールド・ワイドに活躍中。